

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372100731		
法人名	有限会社マインド		
事業所名	グループホーム葵		
所在地	愛知県岡崎市丸山町字仲畑8番地1		
自己評価作成日	平成21年12月30日	評価結果市町村受理日	平成22年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成22年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

思いやりの気持ちを持ってお世話させていただきます。
介護計画見直し検討を常にする様心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中にある2ユニットのホームである。職員は理念をふまえて、「もうひとつのあたたかな家族」として、利用者一人ひとりができることを尊重し、日々の生活を支援している。天気の良い日は近所に散歩や買物に出かけ、地域の方や子供達が声をかけてくれるなど、地域に馴染んだホームである。又、利用者の意向を家族に伝え、外食や墓参り、銭湯など、なじみの場所への外出も継続できるよう対応している。排泄の自立をめざし、紙おむつから布パンツへの切り替えや、トイレでの排泄を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念(心安らぐもう一つの家)家族同様の環境、それまで慣れ親しんできた生活の持続と残された残存機能を生かした生活をして頂く。	職員は「心安らぐもう一つの家」を理念として、ホームを「もうひとつのあたたかな家族」ととらえ、日々の生活を支援している。毎日「理念」と「勤務時間中の留意事項」を、朝礼で唱和し、ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行っている行事は地域の子供、保護者、総代、民生委員の方に参加して頂いている。	散歩時には、地域の方が声をかけてくれたり、畑で取れた野菜を分けて頂くなど、地域の一員として日常的に交流している。葵夏祭りなど、ホームの行事には、子供達が保護者とともに参加し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達が気軽に立ち寄って頂ける様に取り組み常に開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行っている。年に夏と冬夏祭り、クリスマス会を行っている。地域の子供会、保護者の方に参加して頂いている。	2ヶ月毎に実施。地域の総代や民生委員、隔月で市の長寿課職員と地域包括支援センターの職員が出席し、ホームの行事や災害時の協力をお願いしている。家族の参加は得られていないが、いつでも見られるように、入り口に行事の写真等と一緒に掲示している。	家族に対しては、引き続き会議への参加呼びかけをお願いし、サービスの向上に活かしていただいたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新しく入居希望の利用者様の状況でグループホームに馴染む事が出来るか解らない時は相談している。	市の長寿課窓口担当者とは、常に、相談、指導を受けるなど協力関係を築き取り組んでいる。月に一度、介護相談員が利用者と話ず機会があり、サービスに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っている勉強会で身体拘束について勉強を行っている。昼間は部屋の窓、玄関、非常口は施錠していない。Am9:00~pm18:00	拘束に関しては、ホームの重点項目としてとらえており、夜間は防犯の為施錠している。拘束についての新しい情報なども毎月の勉強会で、職員に周知徹底し、車椅子をテーブルにピッタリつけることも動きを制限するので拘束と位置づけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行っている勉強会で虐待について普段行っているケアを見直して勉強会で行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度が必要な方は1ユニットでは入居されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームに適した入居対象者であるか十分に検討している。 入居者や家族の質問には十分な説明を行い、納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が毎月訪問され利用者様の要望を聞き入れた時は必ず伝えて頂き改善に努めている。	家族の訪問時には、必ず話す機会をつくり要望などを、運営に反映させている。介護相談員と利用者の会話の中で得られた情報については、記録し、職員全員で共有、検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の勉強会で意見を聞くようにしている。年に一度個別面談を社長と行っている。	夕方6時くらいからの1時間、月に1度勉強会があり、必ず社長が出席し、意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、向上心を持って働いてもらえる様に働きかけている。 年に1度、個別面接を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の勉強会で外部の方に来て頂き勉強する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度のグループホーム小部会に参加し、同業者との交流を通じてサービスの質の向上、人材育成に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様一人ひとりのこれまでの生活歴本人にとって大切な経験や出来事を知りその人らしい暮らしを支えられる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気がかりな事や、意見、希望を職員に伝えたり、相談できる様に面会時の声かけを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず見学に来て頂き、入居前に何度も訪問を行い、以前の様子を聞いて不安を解消し、納得して頂き入居してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を図るために、入居者様が出来る事、出来そうな事は、手や口を出さず入居者様のペースを保ちながらも守ったり一緒に行う様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、知り合いの方が気軽に訪問でき訪問時は居心地良く過ごせる様な雰囲気を感じている。(あいさつ、笑顔)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方が余り負担にならない程度に、外出、外食等が出来る様に働きかけている。	馴染みの関係を家族とともに支えていけるように、外食や墓参り、銭湯など家族の方の負担にならない範囲で時間を楽しんでもらっている。	事業所としての馴染みの関係との取り組みも、家族と連携しながら支援して欲しい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様はほとんど日中フロアに居て気の合う入居者様と会話、読書などして生活して見えます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていません。 今後の課題として検討します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者様一人ひとりと会話を多くし、何をして欲しいのか日々の行動、表情を見極め把握出来る様に努めている。	日々の生活の様子や表情などから本人の思いや意向を汲み取るように努め、人としてあるべき姿を大切に考えながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	共同生活な為、入居者様に100%納得して頂く事は困難だが出来るだけ入居者様本位の行動を尊重している。 声かけをして、手伝って頂ける方は荷物運び、洗濯物たたみ等をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が言葉がけ、態度はゆっくりする様に心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりの生活状況を観察し、何がしたいか？してほしいか？を把握し、介護計画を作成し、支援内容を共有出来る様にしている。	本人や家族の希望に添いながら医師の意見も取り入れて介護計画を作成しており、利用者が今まで自分の家でやってきたことを同じように続けられるような計画内容を心がけている。モニタリングは随時行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりの経過表、水分、健康チェック等を記録し、疑問点を会議で話し合いを行っている。介護計画の書式変更を行い、個々の支援が共有出来る様に徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に合わせて事細かに介護計画を作成し、それを各職員に周知徹底している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夜間災害が起きてしまった場合近所町内の災害支援隊の方達に連絡をとり協力して頂ける事になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の心身の変化や異常が起きた場合気軽に相談できる医療機関を確保している。 (葵セントラル病院、田口 栄一先生)往診月に1回有	入所以前のかかりつけ医の受診については本人や家族と相談しながら必要な支援を行うこととしている。月に一度の協力医による往診で利用者の体調管理と症状の早期発見に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化が起きた場合、協力医との確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院の為の話し合いや協力を医療機関と行っている。 職員が一週間に一度見舞い情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化された場合でもグループホームで行える支援を出来る限り行っている。	契約時に本人と家族に十分説明し、協力医と連携をとり早い段階で本人、家族と相談しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	近日中の勉強会で救急救命法の学習を行う予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所町内の災害支援隊の方達に協力して頂ける事になっている。 年に二回消防訓練を行っている。	年に2度の避難訓練を実施しているが1度は消防署の協力を得て行う。実際の災害発生時には地域の総代(自治会長とは別に地域のまとめ役としての特別な役割を持つ)を通して地域の協力が得られる体制を築いている。	災害に備えた地域ぐるみの訓練の実施でより一層の協力体制の確保に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の話かけや態度はゆったり穏やかな雰囲気です。	管理者は接遇マニュアルに添って、人生の先輩として利用者を尊敬し人として守られるべき誇りやプライバシーを損ねないような対応を心がけるよう、職員への指導を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表示が出来る入居者様に対してはその時の希望に応じている(買い物、食べ物等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりへの気持ちを尊重して出来るだけ個別ある支援をしている。 自室で休んだり、散歩等一人ひとりの思いに配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用の方にホームまで来て頂きカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が重度化された場合でもグループホームで行える支援を出来る限り行っている。出来る事はお手伝いをして頂ける。野菜の皮むき、食器の片付け等を手伝って頂いている。	利用者は台所で火を使うことはしないが、食材を洗い皮をむいたり切ったりする作業を助け合って一緒に行く。また味見も利用者の大変な役割である。職員も同じテーブルで一緒に食事をする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の量を主、副に分けて10割で記入している。水分補給の量を表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に移動出来る方は、誘導移動し口腔ケアを行って頂ける。 誘導の出来ない方は、席で職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を表に記入し排泄時間を把握し、職員が誘導しなるべく失敗が減少する様に心がけている。	夜間もポータブルトイレは使用しない。転倒の危険性を考え夜間も職員がことばを掛けてトイレでの排泄を促している。入所の時点でオムツから紙パンツに切り替え、更に布パンツへの切り替えを目指す。オムツから布パンツへの切り替えに成功した事例は数多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の徹底を行い排泄表の記入をし三日出ていない方は、下剤を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在一日おきに入浴をして頂ける入浴が出来ない方は足浴をしている。朝の入浴を嫌がる入居者様は午後にし、なるべく気持ち良く入浴をして頂けるように心がけている。	バイタルチェックを行った後、最低でも一日おきの入浴を促し清潔保持に努める。昼間の時間帯で利用者が好きな時間を選ぶ。入浴拒否の利用者には見計らって再度促すなど工夫をするが、家族の協力で銭湯での入浴を楽しんでもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には、庭に出たり、散歩に出掛けたり身体を動かし、生活のリズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを一人ひとりの経過表に挟み、職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お願い出来そうな仕事を手伝ってもらっている。(食器拭き、洗濯たたみ洗濯物運び洗濯物干し、掃除)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛けている。本人の希望があれば買い物に同伴している。	近くに中部総合公園、東公園があり雨が降らなければ利用者5～6人にヘルパー4人くらいが付き添って毎日散歩を楽しんでいる。また個人的な買い物や外出などにも希望に添って支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解している入居者様は少しのお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節に合った飾り付けや、入居者様の手作りの作品等を展示している。	玄関を入ったホールには行事の写真が飾られている。次の行事までにはそれぞれの家族に渡されるところのこと。リビングの両側に配された居室の入り口はリビングから見渡すことができ利用者の安全確認が行いやすい。広いリビングで利用者は個々に読書や、計算ドリル、塗り絵など自分の好きなことを楽しみながらゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファが設置しており、気軽に座ってくつろげるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人が使い慣れている物は自由に持って来て頂いている。自室にラジオ等が置いてあります。	家族の写真や仏壇、タンスなど使い慣れたものが持ち込まれ、利用者は自分らしく過ごしている。面会も自由で一度に何人もの訪問を受け居室で楽しいひと時を過ごす利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの手すりを設置している。トイレの入り口にトイレと書いて目印を貼ってある。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	ホームの大きな行事として年2回、夏は葵夏祭り、冬はクリスマス会があり、老人クラブ、子供会、地域の参加は恒例の行事になっているが、昨年はインフルエンザの影響で、クリスマス会への参加は見送られた。	○
重点項目 ②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議は2ヶ月に1度開かれている。夜間の災害を想定した時に職員が1人のため、運営推進会議の際、町内、近所に協力を依頼し、協力体制ができています。	○
重点項目 ③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	常に市町村窓口担当者とは、利用者についての相談など指導を受けたりして連携をとっている。介護相談員と利用者の面談日が月に1度あり、市町村とともにケアの向上に取り組んでいる。	○
重点項目 ④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	利用者の意向、希望に耳を傾け、個別のケアに取り組んでいる。家族には毎月請求書を手渡しすることになっており、家族来訪時は状況報告の場にもなっており、家族の意見を聞きケアに反映させている。代表者の携帯番号を家族に伝えており、直接電話をもらうこともあり、職員で話し合いを持ち取り組んでいる。	○
重点項目 ⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域で、安心して生活できるホームとして、運営推進会議では、災害時の協力をお願いし、町内の災害時支援隊の活動や防災訓練等、普段からの交流が重要と確認しあった。又、老人クラブの方の出席を提案し、講習会等に参加をよびかけ、地域高齢者との交流も大切にしている。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

